

筑波大学附属図書館 年報 2012 年度



University of Tsukuba Library

Annual Report

2012



目次

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY
ANNUAL REPORT 2012

12

C O N T E N T S



1	1 館長挨拶
2	2 トレンド 大学生に身につけさせたい力 “書ける”筑波大学生を増やすために
4	3 フォーカス (2012 年度の特徴的な活動・事業) 1) 「ラーニング・スクエアの魅力をご紹介します!」 2) 中央図書館開館時間の延長 (試行) 3) 新 TRIOS について 4) つくばリポジトリと TSA 5) 特別展
12	4 資料紹介 敦煌吐魯番文献集成
13	5 職員の活動 1) SCPJ ワークショップ 2) 論文発表・研修における講師等 3) 職員研修会
16	6 トピックス サービス・活動、見学・来訪者、オリエンテーション・講習会、 研修・シンポジウム、会議、その他
18	7 メディアにみる附属図書館 1) 学内外のメディアに掲載された当館に関する記事 2) 図書館の刊行物
19	8 所蔵・公開資料の記録 出版・放映・Web 上に掲載された所蔵・公開資料
20	9 附属図書館ボランティアの活動
21	10 組織図・歴代館長
22	11 統 計

館長挨拶

中央図書館 エントランス



筑波大学附属図書館長

中山 伸一

開かれた大学図書館にむけて

「筑波大学附属図書館年報2012」をお届けします。

ご挨拶にかえて、2012年度の附属図書館におけるいくつかのトピックスをご紹介します。

まず本年度の大きな取り組みとして、中央図書館の開館時間延長の試行があります。利用者の開館時間に対する根源的な要望は、365日24時間開館でしょう。しかしながら、その実現はコストパフォーマンスや学生の生活習慣等を考えると問題もあります。今回は「開館時間に関するアンケート調査」を行うなどして学生の要望を把握した上で、11月から平日の開館時刻を9時から30分早めて8時半とし、土日祝日の閉館時刻を18時から2時間遅くし20時とし、さらに1月からは平日の開館時刻を22時から2時間遅くし24時としました。最終バスの時間や、近隣のアパート付近の街灯の設置状況等を考えると、安全上の危惧もありましたが、利用者の要望との中での妥協点でした。開館時間延長は2013年度において休業期間及び年末年始の試行を行ない、その利用状況等を考慮して恒常化するかどうかを検討します。

近年、大学図書館は学習の場としての重要性が強く指摘されており、それを受けて附属図書館でもラーニング・スクエア(ラーニング・commons)の拡充や、ラーニング・アドバイザーの配置をこれまで行ってきました。本年度の新たな取り組みとしては、ライティング支援連続セミナーがあげられます。教員の皆様の協力を得て「知識と言葉をめぐる冒険」というテーマで10月から12月にかけて行いました。ライティング支援については、学習サポートデスクでもラーニング・アドバイザーが個別に対応しております。学習資料充実のための、「授業関連必読図書」も次第に定着してきました。引き続き、教員の方々の積極的な指定をお願いします。

中央図書館は、大学内に於ける立地の良さから、様々な情報発信の拠点として利用していただいております。エントランスホールで月曜日の朝に大学院生等が研究のプレゼンテーションとディスカッションを行うMMI(Monday Morning Institute)は学生の自主的な活動として注目されます。また、カウンター前のスペースは多くの部局等からパネル展示等の要望があり、大学からの情報発信の場となっております。附属図書館としても、本年度は【Learning Adviser×Booklogの本棚】やその関連企画のお薦め本のブックレビュー等を展示しました。恒例の附属図書館特別展は、開学40+101周年記念事業のプレ企画、及び図書館情報大学・筑波大学統合10周年記念の事業として「明治時代に礼法はいかにして伝えられたか」―出版メ

ディアを中心に―と題して行い、盛況でした。

非来館型サービスの中心となる電子ジャーナルや電子ブック、機関リポジトリ(つくばリポジトリ)については引き続きその提供と新たなコンテンツの充実に努めております。特に電子ジャーナルのバックファイルについては力を入れており、今年度も財源を確保してNature姉妹誌3誌等を購入しました。

特記すべきこととして、東日本大震災の影響で閉じていた体芸図書館の開館があります。カーペットや空調が整わない状況ではありましたが、5月によりやく再開する事ができました。これまで、関係の方々にご不自由をおかけした事と思いますが、多くの方のご利用をお待ちしております。

学内他部署との関係では、TRIOSの構築に関わりました。附属図書館ではもともとARESという研究者の業績を抽出するシステムを開発しておりましたが、研究者情報の蓄積・発信のためのシステムであるTRIOSの改訂にあたり、その統合をはかることとなりました。これによりARESの機能を教員の方々に享受していただけるようになりました。

さて、筑波大学は国公立大学図書館協力委員会および同委員会と国立情報学研究所(NII)との連携・協力推進会議のメンバーであり、7月31日までは委員長館をつとめました。最後に、これに関連する状況も少しご紹介しておきます。

連携・推進会議のもとに設置された大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)は、出版社等との契約条件の交渉等で一定の成果をあげております。当初は事務局の専任職員を派遣元大学が負担しておりましたが、今年度は継続的に活動を行うため会費を徴収する会員制の組織に移すべく調整を行い、来年度から新組織への移行が実現する運びとなりました。SCOAP³は高エネルギー物理学分野の査読付きジャーナル論文のオープンアクセス化を目指すもので、CERN(欧州原子核研究機構)が提案し、日本では大学図書館とNII、さらに高エネルギー加速器研究機構が協議の上、昨年度に関心表明に署名しております。本年度は、ジャーナルの購読料を投稿料に振り替える機関の調査を行いました。筑波大学は、財務部の積極的な支援もあり、振り替えに同意を表明しております。

附属図書館は、以上のように皆様から見える所、見えない所で、その利用や来館の敷居をできるだけ下げる工夫をして、開かれた大学図書館を目指しております。多くの方々の更なるご利用と、附属図書館のこれら活動に対するご理解・ご支援を、この場を借りてお願い申し上げます。

大学生に身につけさせたい力 ー“書ける”筑波大学生を増やすためにー

今日、「学生がレポートを書く力を身につける」は重要な課題になっている。数々の中央教育審議会での「答申」、「審議のまとめ」にもそれは繰り返し強調されている。しかし、そこに具体的な方策は示されていない。

レポート執筆については、分野ごとにさまざまな作法があり、また日本語が英語かによって異なる。学生がどのような「レポート作成」教育を学んできたかにもよる。

筑波大学中央図書館では平成 24 年秋より「筑波大学附属図書館ライティング支援連続セミナー 知識と言葉をめぐる冒険」を逸村裕・三波千穂美（図書館情報メディア系）、島田康行（アドミッションセンター）、野村港二（教育イニシアティブ機構）の 4 名の教員の協力を得て実施した。

事前に教員、図書館員との間で打ち合わせを行い、内容についての検討を行った。その結果、セミナー内容は「読むこと」「考えること」「伝えること」など大学での学びに必要なスキルをテーマ毎に学習できるセミナー」として、大学でのレポートの作法、正しいレポートの在り方、図表の読み取り方、正しい引用等について全 8 回行うこととした。会場は中央図書館 本館2階 コミュニケーションルームとした。

そのプログラムは下記である。

- ① 図表を文章で表現する
- ② 「事実」と「意見」を区別する
- ③ 疑うことからはじめよう - 批判的に読む -
- ④ 自分の考えを述べる - 筋道を立てて考える -
- ⑤ 効果的な伝え方
- ⑥ 小論文とレポートの違いはわかりますか？
- ⑦ 情報を構造化する
- ⑧ 情報の海でおぼれないために

内容は各回完結方式で 1 回 60 分。単独で受講しても連続で受講してもよいように内容を調整した。複数回受講を含む参加者数は「1 回 47 名、2 回 10 名、3 回 10 名、4 回 2 名、5 回 2 名、7 回 1 名」であった。（職員を除く）当初の構想では参加者は学群 1、2 年生を想定したが、大学院生の参加も多かった。図 1 に参加者数を示す。

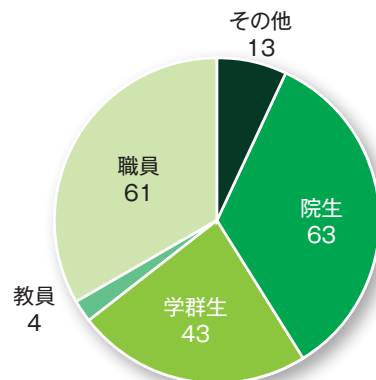


図 1 参加者数内訳

表 1 学群生の所属内訳

所属	1 年	2 年	3 年	4 年 (空白)	総計
人文学類					1
社会学類					1
国際総合学類	1	1			2
教育学類				1	1
心理学類		1			1
障害科学類		5			5
生物資源学類			1		2
地球学類	2				2
応用理工学類		2			5
工学システム学類	1				1
情報科学類	1	1			2
知識情報・図書館学類	7			1	5
看護学類			3		3
体育専門学群	1				1
総計	13	10	4	2	14

表 2 大学院生の所属内訳

システム情報工学研究科	1
教育研究科	6
人間総合科学研究科 専攻名未記入	8
人間総合科学研究科 芸術専攻	1
人間総合科学研究科 障害科学専攻	1
人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻	4
人文社会科学研究科 専攻名未記入	16
人文社会科学研究科 国際地域研究専攻	16
数理物質科学研究科	5
生命環境科学研究科	5
総計	63

毎回、図書館 WWW、図書館からのメール、Twitter、ポスターで告知を行った。

初めての試みであり、関係する教員がどのようなレポート作成指導を行っているかの共通理解を持たせたことは成果の一つと考えられる。今後の継続に当たっては共通科目とのいっそうの連携、学生実態の把握、このようなセミナーを大学の中でどのように位置づけるか検討が必要であろう。

(図書館情報メディア系教授 逸村 裕)

筑波大学附属図書館
平成24年度ライティング支援 連続セミナー

会場：中央図書館2Fコミュニケーションルーム

筑波大学附属図書館は、筑波大生の学習をより一層サポートするため、当館としては初めてとなる連続セミナーを企画しました。4名の先生方が、みなさんの「知識と言葉をめぐる冒険」をリードします。授業では聞けない、教えてもらえない（…）かもしれないいろいろな事を、わかりやすく、楽しく学ぶことができるでしょう。しかも、それは社会人になっても役立つあなたの財産となるはずです。あなたも冒険に参加してみませんか？

特に
学部1、2年生
チャンス！
です

知識と言葉をめぐる冒険
voyage!

事実？意見？
講師：野村 港二 先生
教育イニシアティブ機構 教授

Lesson 1
図表を文章で表現する
10月18日(木)
15:30-16:30

Lesson 2
「事実」と「意見」を区別する
10月24日(水)
15:30-16:30

このように方にお勧め
読むこと・考えること・伝えること etc.
大学での学び方に自信を持ってない方
自分のスキルを磨きたい方

各回完結型のセミナー
でも、
連続して受講すれば
間違いなく効果抜群！
お得です

大学で学ぶべき言葉の力
講師：島田 康行 先生
アドミッションセンター長/人文社会系 教授

Lesson 1
疑うことから始めよう
批判的に読む
11月1日(木)
17:00-18:00

Lesson 2
自分の考えを述べる
筋道を立てて考える
11月5日(月)
17:00-18:00

Lesson 3
効果的な伝え方
11月12日(月)
17:00-18:00

文書リテラシー
講師：三波 千穂美 先生
図書館情報メディア系 講師

Lesson 1
小論文とレポートの
違いはわかりますか？
12月3日(月)
15:30-16:30

Lesson 2
情報を構造化する
12月7日(金)
15:30-16:30

情報の羅針盤をさがそう
講師：逸村 裕 先生
図書館情報メディア系 教授

Lesson 1
情報の海でおぼれないために
12月11日(火)
15:30-16:30

お申し込み：当日飛び入り参加もOKですが、なるべく事前に応募フォームからお申し込みください。
http://wp.me/PCAD-B9
お申し込みのキャンセル・お問い合わせ先 e-mail: ref@talpin.tsukuba.ac.jp
会場はすべて筑波大学中央図書館本館2階コミュニケーションルームを予定しています



参加者数及びそのアンケート結果からは今後も継続したほうがよい、との判断ができ、平成25年度も実施の予定である。

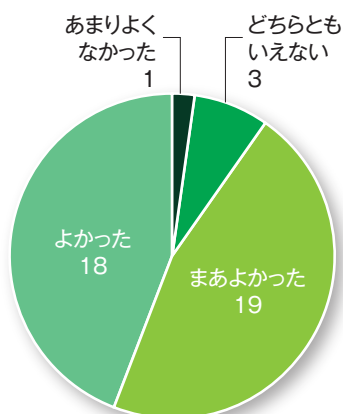


図2 セミナーの総合評価

1.ラーニング・スクエアの魅力を紹介します!

1.中央図書館ラーニング・スクエアの概要

「ラーニング・スクエア」とは、2011年9月に開設された、中央図書館本館 2 階の学習支援環境のことです。「インプットからアウトプットまでの知的創造活動と、交流・協働のトータルサポート」をコンセプトに、

- 学生たちが気軽に集い、学び、教え合う学びの空間
- 多様な学習スタイルに応じて姿を変える万華鏡空間
- 学生同士の交流や諸活動の「見える化」により知的好奇心を刺激して、学びの相乗効果を生み出す空間

を目指し、学生サポートデスク、グループ学習環境、成果発表・企画のスペースを用意することで、学習を軸とした「知」の交わりと創造の空間であることを強くイメージしています。

2.ラーニング・スクエアの構成

ラーニング・スクエアは、以下の四つのゾーンで構成されています。ただし、それぞれ独立に存在するものではなく、互いにオーバーラップしながら共存しています。

● スタディサポートエリア

人的なサポートを提供する空間で、メインカウンター、レファレンスデスク、ボランティアカウンター、そして学生サポートデスクで構成されています。

● クリエイティブエリア

全学計算機や個人学習スペースを中心とした、学習による創造を促進する空間です。附属図書館でも（そしておそらく筑波大学でも）最も利用率が高い空間です。

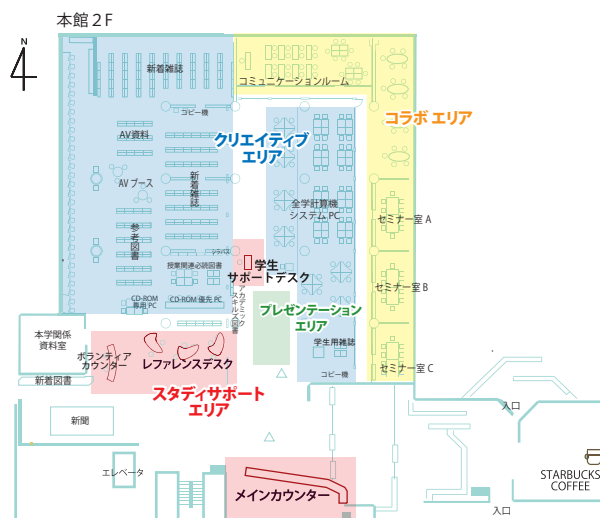
● コラボエリア

セミナー室やラウンジ、コミュニケーションルームなど、グループで自由にディスカッションや共同学習を行えるような設備を備えた空間です。特にコミュニケーションルームでは、テーブル・椅子・ホワイトボードを自由に組み合わせることができ、柔軟な利用に対応しています。

● プレゼンテーションエリア

吹き抜けの下、多くの学生が行き交う一帯を成果発表・展

示のための空間として構成しました。学習・研究成果や展示を多くの人の目に触れさせ、異分野の交流や「気づき」を促進します。附属図書館が知識の創造サイクルの中心に存在することを象徴する空間でもあります。



3.学生サポートデスク活動状況

学生サポートデスクでは、「ラーニング・アドバイザー」として雇用された大学院生が、授業期間の平日午後2時～午後7時の間に在席し、学習支援を目的とした利用者対応を行っています。図書館の活用法、文献検索、全学計算機の使い方などについての質問に回答するほか、2012年度からは、後述する「ライティング支援」の活動として、レポートの書き方などの支援を開始しました。

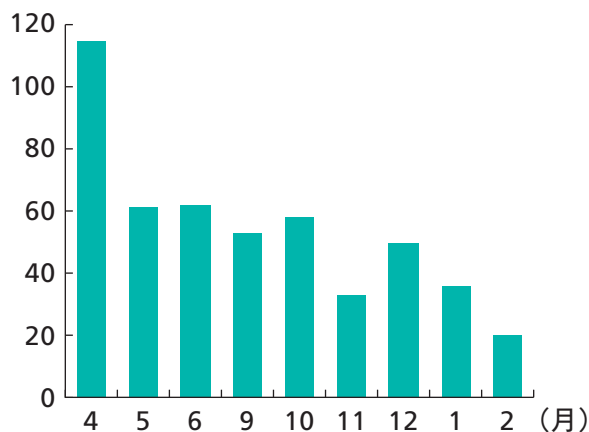
2012年度の質問件数は次のようになっています。

● 質問種別ごとの質問件数

図書館の活用法	40
文献検索	63
PC関連	272
ライティング支援	14
その他	99
合計	488

質問種別ごとの件数では、学生サポートデスクに隣接している全学計算機の使い方に関する質問が、全体の半数以上を占めています。

● 月ごとの質問件数



月ごとでは、履修登録に関する質問や、全学計算機に不慣れた学生からの質問が集中したため、4月の件数が多くなっています。(8月、3月は休止)

4.ライティング支援

学生サポートデスクでのライティング支援は、レポート、論文、プレゼンテーション原稿など学習に関する文章を対象として行っています。相談者の文章を添削するのではなく、アドバイザーが相談者に問いかけ対話することによって、何がわからないのか、どこが問題なのかを自分で気づかせ、相談者の個性を最大限に尊重することを重視しています。



(学生サポートデスク)

ラーニング・アドバイザーの視点から①
ライティング・サポートについて

坪山 有理

学生サポートデスクにおけるライティング・サポート向上のために、利用者・教員・学生サポートデスクの連携強化、及びラ

イティング・サポートの方法の多様化が有効かもしれません。

まず利用者側ですが、私の担当時間帯は、総合科目でレポート課題を出された一年生が主に来ていました。講義内でレポートの書き方を提示されているのにも関わらず、やはり難しいのか書けない学生が多かったように思います。教員がレポートの合格基準を厳しくし、図書館の講習会・学生サポートデスクとの連携強化により、学生の書く力を向上させる取組みが必要かもしれません。

次に、学生サポートデスク側では、どのようなライティング支援ができるのかなど、サービス内容の周知に力を入れる必要があると感じました。レポート課題を検討する段階で持ち込んで良いのか、レポートが書けてからでなくてはいけいないのか、など相談の仕方に関する周知をやりきれなかったと感じています。さらに、対面でレポートを持ってこられても、瞬時に読み込んで返せるコメントには限界があります。メールでレポートを送付し、アドバイザーがシフト時間内にコメントして返送するなどのやり方も検討してはどうでしょうか。

ライティング・サポートサービスの更なる向上
にむけて

並木 翔太郎

ライティング・サポートの業務を通して得た感想は、大きく2点あります。1点目は、利用者の大半が留学生であったことについてです。中には、英語で対応しなければならない場面もあり、ライティングそのもののアドバイスよりも、どのようなテーマについて、どのように書きたいのかを理解してあげることに苦労しました。また、日本語が苦手であることを理由に、指定されたテーマについて、直接レポートを書いてほしいと頼まれたこともありました。ライティングを単に“手伝う”のではなく、“支援”することの難しさを感じたことを覚えています。

2点目は、利用者の割合として、学類生よりも院生の方が多かったことについてです。テーマや主張をある程度決めて相談に来られる院生の方がほとんどでしたので、相談の内容として、全体の構成、特に主張の見せ方や、題目の英訳についてなどが多かったように思います。その場で相談者の主張を理解しなければならないという難しさはありますが、アドバイスしやすい事例だったと思います。

今後の課題として、利用者をどう増やしていくかについての工夫が必要であることが挙げられます。ライティング・サポートサービスの周知を強化することで、より多くの方に、このサービスを賢く利用していただけたら幸いです。

5.ラーニング・アドバイザーの研修

ラーニング・アドバイザーの支援スキルを向上させるため、青山学院大学大学院の小林至道氏（現・関西大学特任助教）を講師として迎え、職員とラーニング・アドバイザーを対象とした「ライティング支援セミナー」を9月に実施しました。

また、図書館の活用法や文献検索についての研修には、図書館で実施している各種データベース等の講習会を利用しました。

ラーニング・アドバイザーの視点から②

9/13ライティング支援セミナーや図書館講習会に参加して

永見 聡一郎

近年、大学図書館にも学習支援機能が求められており、本図書館でもラーニング・アドバイザーを配置して、同機能の強化に努めていることは、素晴らしい取り組みだと思います。しかし、アドバイザー自身はライティング能力があっても、それを「教える」ことは、別のことです。学生サポートデスクでは自らの専門外の質問も来ることもあり、他分野のデータベース等の知識も必要です。ライティング支援セミナーや図書館講習会でそのような機会を設けて頂けたのは、アドバイザーとしても非常にありがたいことでした。

特に、個人的にはライティング支援セミナーが強く印象に残っています。専門の講師の方のお話は勿論のこと、学生役とアドバイザー役に分かれての実践的なグループワークでは、アドバイザーの視点だけでなく、学生側の視点からもライティング支援について考える機会が得られました。（かつて自分もそうだったように）レポート等に慣れていない学生がどのような点に躓くのか、再確認できました。

今年度は講習が9月だったので、贅沢を言えば、もう少し早い段階で受講できればよかったように思いますが、来年度以降もこのような取り組みが継続されることを期待したいと思います。

6.ラーニング・スクエアでの企画

ラーニング・スクエアでは、筑波大学生の学習支援の一環として、WWW や前述のプレゼンテーションエリアを活用し、学生の「気づき」を促し知的刺激を与えるような展示を企画しました。中でも、「ブックログ」および「Learning Adviser×Booklogの本棚」は、企画から実施までの全ての過程をラーニング・アドバイザーが中心となって行いました。

(1)ブックログ～「筑波大学附属図書館ラーニング・スクエア☆学習支援の本棚」

ラーニング・アドバイザーが、学生に薦める図書を附属図書館蔵書の中から毎月1冊以上選んで書評を執筆し、図書紹介ツール「ブックログ」を用いて、附属図書館ウェブページのサービスのひとつとして紹介しています。



(学習支援の本棚 <http://booklog.jp/users/tulips>)

ラーニング・アドバイザーの視点から③

ブックレビューの執筆

松本 美貴子

ラーニング・アドバイザーとして、筑波大学附属図書館の蔵書の書評を書くことになりました。目的は「筑波大生の学習に役立つ本を紹介する」こと。月に1冊紹介するのは簡単で、と最初は考えていましたが、月末になると学習に役立つ本とは？と立ち止まっている自分がいました。筑波大学附属図書館では理系・文系分野の蔵書は勿論、芸術・体育の分野の蔵書も充実しています。本学の特色である多様性がさらに私の頭を悩ませました。

そこで私がレビューの執筆にあたって目的としたことは自身の専門分野だけでなく他の分野にも目を向けてもらうことでした。そのため、専門書ではなく入門書を中心に紹介していました。

ラーニング・アドバイザーによってレビューを行う本の選定の方針は異なっているかと思います。院生が後輩の学習に役立つ専門書の紹介をすることは非常に有益です。職員の方々もそのつもりでレビューを依頼されたのかもしれませんが。私のような方針でも執筆を許してくださった筑波大学附属図書館の皆様の懐の深さと、書く楽しみ、誰かに読んでもらう楽しみを教えてください。ブックレビューの執筆という仕事に深く感謝しています。

(2) Learning Adviser×Booklog の本棚

図書館利用の促進と、ラーニング・アドバイザー、ラーニング・スクエアの認知を図ることを目的として、(1)のブックログで書評を書いた図書を利用者に実際に手に取ってもらえるように展示しました。

ラーニング・アドバイザーによるコメント・紹介文等を記入したPOPの他、看板、展示レイアウト等もラーニング・アドバイザーが手作りしました。



(Learning Adviser×Booklogの本棚)

ラーニング・アドバイザーの視点から④

「Learning Adviser×Booklogの本棚」 展示企画について

小林 彩子

「Learning Adviser×Booklog の本棚」を実際に展示することになった時は、とても面白いアイデアだと感じました。図書館のようにあらゆる本が並べられた自由度の高い本棚から少し離れ、他人がある目的をもって作成した本棚は新鮮味もあり、多くの方が興味を持ってくれると思いました。

職員の方々とラーニング・アドバイザー 7 人でミーティングを行い、本棚のコンセプトから設置までの全てのステップを分担して行いましたが、このような本格的な仕事をするのは初めての体験でした。一般的なアルバイトや TA とは異なり、自分たちが主体となりアウトプットを出さなければならないという大きな責任を感じました。第三者を魅了するコンセプトやイメージを考えることには苦労しましたが、心強かったのは、経験を積んだ職員の方々が常に見守ってくれ、たくさんのアドバイスと方向修正をして下さったことです。また、展示本を選ぶことやデザイン、広報などアドバイザーの得意分野を生かした分担で相互にアドバイスを出し合いながら作業を行えたことから、それぞれのキャラクターを知るととても良い機会となりました。これは普段デスクで質問の対応をしている際にも、他のアドバイザーの特性を知っていれば回答の幅も広がり、とても良いこと

だと思います。それだけでなく、この企画によって多くの職員の方々とアドバイザーと出会うことで良い刺激を得られ、日常生活にとってもかけがえのないものとなりました。

「Learning Adviser×Booklogの本棚」を通して

佐藤 良太

ラーニング・アドバイザーの業務は、シフトの時間中、基本的に1人なので、他のアドバイザーの方々との接点がありません。せっかく様々な分野の大学院生が同じアドバイザーとして働いているので、どこかで交流を持ちたいと思っていたところに、出てきたのがこの企画でした。準備作業を通して、アドバイザー同士や職員さんとの交流を増やすことができたのは、一つの大きな収穫です。

実際に作業を始めると、各学群の学生を対象に書籍を紹介するためには、今までブックログにアップしているブックレビューでは冊数が足りないことが分かり、各分野の書籍を追加する必要がありました。また展示においては、図書館情報学を専門とするアドバイザーが選書の全体のバランスを考えたり、芸術学を専門とするアドバイザーがデザインを考えたりと各々の専門を生かす場面もありました。異分野の大学院生が集まっているラーニング・アドバイザーだからこそできた企画だと思います。

展示中、わざわざ足を止めて本棚を覗いてくれる人や自分たちが薦めた書籍が貸出されている様子を見ると、率直に嬉しく、この企画をやって良かったなあと思います。

(3) その他の企画

プレゼンテーションエリアでの展示企画として、

- リサーチフェスタ 2012 受賞者ポスター展示
 - 院生プレゼンバトル 2012 ポスター発表作品展示
- 等を行いました。また、2011 年度に引き続き、中央図書館エントランスでの TGN (筑波院生ネットワーク) による MMI (Monday Morning Institute) をサポートしています。

7.2012年度を振り返って

2012 年度は、ラーニング・アドバイザーによる主体的な活動体制が整う一方で、ライティング支援に初めて取り組んだ 1 年でした。2013 年度は、2012 年度の経験を踏まえて、学生サポートデスクでの質問対応・ライティング支援の強化に努めます。

(中央図書館 ラーニング・スクエア運営 WG)

斎藤 未夏、嶋田 晋、西島 悠策、福井 啓介、
村尾 真由子、渡邊 朋子、渡邊 雅子 (主査)

2.中央図書館開館時間の延長（試行）

1.はじめに

附属図書館では、これまでも段階的に開館時間の延長を実施してきましたが、近年、学生から、更なる開館時間の延長についての要望が寄せられていました。この背景には、中央教育審議会において議論されている、学士課程教育の見直しの動向も大いに関連があります。実際、平成23年6月に本学を会場として開催された「第4回大学教育改革フォーラム」において、パネリストとして登壇した本学の大学院生（留学生）からも図書館の開館時間延長の要望があったことが今回の試行実施の直接のきっかけでした。

中教審の答申等においても、学士課程教育の質的転換への具体的方策の一つに、学生の学修支援環境の更なる整備の対象として、図書館の機能強化や開館時間の延長などが今後の検討課題として挙げられています。とくに学習時間の増加・確保のための受け皿として開館時間の延長は必須であると言えます。

2.検討の経緯

開館時間の延長のみならず、24時間開館も含めて実現方策を検討しましたが、仮に中央図書館で24時間開館を実現しようとなると、新たな施設整備（改修）や運用面で多大な経費が必要となります。そこで、まずは利用者（学生）のニーズを把握するために、アンケート調査を実施し、附属図書館の利用実態及び開館時間に関するニーズ等の基礎データを収集するとともに、施設整備が不要で、かつ比較的低コストで運用可能な延長方策として、現行の開館時間を2時間程度延長し、利用動向の収集・分析を行うこととなりました。

3.開館時間に関するアンケート調査

平成24年9月5日～28日の間、全学群生・大学院生を対象として「筑波大学附属図書館の開館時間に関するアンケート調査」を実施しました。（「学生生活実態調査」と同時配布・回収。）

集計結果は、図書館ホームページでも公開していますが、概略は次のとおりです。

- 回答者数は4,818名（回収率29.2%）
- 開館時間への意見として、「現状でよい」との回答が開館時刻（朝）で80%、閉館時刻（夜間）で73%。それに対して、24時までの延長希望が8%、24時間開館の希望は5%程度。
- その一方で、開館時間延長が実施された場合、朝・夜間ともに50%強が「利用したい」と回答。さらに休日・休業期

間中の開館延長を希望する意見も少なからずあり。

- 開館時間延長を求める理由（主な利用目的）の上位3位は、①自学自習のための学習スペース、②資料の閲覧、③資料の貸し出し。
- 時間外の学習スペースの設置場所として、「図書館」と「学内の他の場所」のいずれを選択するかとの問いに対して、「図書館」を選択する意見が80%強。
- 夜間延長時の安全対策として最も必要なのはキャンパス内の街灯の増設。

4.試行実施

開館時間延長の試行第一弾として、中央図書館を対象に、平成24年11月1日～平成25年3月8日の間、①平日朝（9:00→8:30）、②土日祝日夜間（18:00→20:00）の開館時間延長を実施しました。さらに第二弾として、平成25年1月7日～3月8日の間、③平日夜間（22:00→24:00）についても開館時間を延長しました。

それぞれ延長した時間帯の利用状況をみると、試験期間をピークとして、②土日祝日夜間で平均220名、③平日夜間で平均200名の利用がありました。閲覧席・キャレルデスク（個人学習机）での自学自習や資料の閲覧、PCの利用等、活発な学習活動が行われており、利用者から大変好評でした。

また、当初、懸念された深夜の安全面も、22時以降は学内者の利用に限定し、館内の巡回を強化した結果、事件事故等の報告はありませんでした。

5.今後に向けて

平成24年度試行時の利用実績が評価され、25年度も引き続き、延長試行を継続するために必要な予算が増額されました。さらに本学では、平成25年度から2学期制への移行に伴い学年暦が変更となります。とくに休業期間が従来の期日と異なることから、学生の図書館利用の影響等も考慮のうえ、先のアンケート結果においても要望のあった休業期間中の開館延長の試行についても検討しています。

開館時間延長の試行継続・拡大により、年間を通じた利用状況が把握できることから、今後、試行時の利用動向の分析や評価等を踏まえて、学生の学修サポート強化の一環として、効果的効率的な開館時間の改善を検討していきます。

（情報サービス課長 細川 聖二）

3.新TRIOSについて

1. TRIOSとは

TRIOSとは、Tsukuba Researcher Information Online Systemの略で、筑波大学の教員（研究者）の研究業績を管理するデータベースの名称です。研究業績の入力、蓄積及び研究者総覧としての外部への情報発信の役目も担っております。

TRIOSは研究業績のデータベースということで、従来より研究推進部研究企画課の担当で運営されています。しかし、現行のTRIOSは運用開始から5年以上が経過し、インターフェイスをはじめ様々な部分で古さが目立つようになってきています。

2. ARESから新TRIOSへ

附属図書館では、2010年度にリポトリ登録と業績入力支援ツールとして、研究業績登録支援システムARES（Achievement of Research Enrollment System）を開発しました。このシステムは研究業績のうちの論文、著書、会議発表について、入力インターフェイスを備え、外部データベースからの事前登録もできるようになっています。

ただ、TRIOSとは違い、研究業績全てを登録するようにはできていません。これは、開発当初はARESで登録した研究業績をTRIOSに登録するという図式が想定されていたためです。ところが、実際に調べてみると、TRIOSのシステムは古いため、外部からデータを投入できるような構造にはなっていないことが判明しました。その後、ARESのデータをTRIOSに加える手法をさまざまに検討した結果、ARESをベースに新TRIOSとして新規に開発するということが決定し、さらなる開発が行われることとなりました。

TRIOSは研究推進部研究企画課の所掌となっており、附属図書館を主体として開発を行うものではありません。また、附属図書館では論文、著書、会議発表以外の研究業績はもとより、研究者情報、教育・社会活動などについては全く扱った経験もなく、単独での開発には多くの困難が予想されました。そこで、情報担当副学長、研究担当副学長、附属図書館長の3名の連名による、「新たな研究者情報の収集・発信の在り方について」（2012.5.24）が発表され、研究推進部を責任主体とし、附属図書館は開発に協力するという形で、新TRIOSの開発にあたることになりました。附属図書館は、ARESからの継続となる、論文、著書、会議発表を含む研究業績全般を担当するものとして、新たに、知的財産権、作品の2つについての開発に参加しています。

新規開発分のうち、特に知的財産権は、特許や実用新案などの権利の業績となるため、公開の可否などで慎重な取り扱いが求められます。そこで、大学内で特許関連を専門に扱う産学連携課などと相談を重ね、特許情報の基本的な見方や扱い方について教えていただき、その情報をもとに業績登録

を実行するためのテーブル構造及びインターフェイスの開発を行いました。

3. データ移行作業について

新TRIOSの開発とともに附属図書館が取り組んでいるのが、ARESから新TRIOSへのデータ移行作業です。ARESには、Web of Science、CiNiiなどの外部データベースから筑波大学に所属する研究者の論文情報を取得する機能によって蓄積された、2004年から2012年までの外部データベース由来の論文業績があり、これらが新TRIOSに使用されます。また、旧TRIOSに蓄積されたデータも同様にすべて移行しなければなりません。おおよそのデータは旧TRIOSからそのままコピーするだけで済みますが、論文業績によってはそれだけでは作業完了しないケースもあります。

移行対象となっている旧TRIOSが持つ業績とARESに蓄積されている論文業績のなかには、同じ論文を指しているものが存在しています。つまり、二つのシステムからそれぞれ新TRIOSに移行した業績において、ARES由来の業績と、旧TRIOS由来の業績が重複して存在しているような場合には、それらを統合する作業が生じるのです。

また、ARESでは、一つの論文を1業績としてカウントしますが、旧TRIOSでは、それを研究者1人ごとの1業績としていました。これは、ARESと旧TRIOSでのデータの持ち方の違いに由来するもので、複数人が共著した論文の場合、ARESではデータベース内で1業績となっているものが、旧TRIOSでは学内に所属している共著者の数だけその業績が作成され、複数存在するということを意味しています。旧TRIOSの論文業績をARESベースの新TRIOSに移行するにあたっては、こういった論文業績も一つに統合し、それを投入することが必要となります。

このように、外部データベース由来データとの統合作業のほか、旧TRIOS内の論文データ同士でも同様の作業が不可欠となっており、現在附属図書館が行っているデータ移行の多くはこれらが占めています。

ARESに備わっていた業績の重複判定の機能は、新TRIOSの開発においても、統合作業での必要性を見込んで、重複判定ロジックの見直しを行い、ほぼ自動的に判定が行えるようになりました。しかし、重複の可能性ありと機械判定された業績を、実際に重複しているかを確認した上で、統合等の処理を進めるためには、補助機能を使用しつつも、やはり人が主体とならざるをえません。

附属図書館では、この統合作業を集中的に処理するため、非常勤職員を3人雇用し、昨年の12月から鋭意処理を行っております。3月現在で21,481件の重複統合処理を行い、およそ67,101件について処理が必要な状況となっています。

今後、2013年5月の公開に向けて、作業効率を高めつつ統合処理を急ピッチで進めていきます。



新TRIOSのログイン画面（開発中のものです）

（電子図書館担当係長 平田 完）

4. つくばリポジトリとTSA

1. 2012年度のつくばリポジトリの概況

2013年3月31日現在、つくばリポジトリのコンテンツ数は、28,616件、年間総アクセス数は267,833回でした。

二次情報データベースであるWeb of Scienceを利用して、およそ週一回のペースで学内研究者の業績を把握しています。学術雑誌掲載論文を中心とした研究業績リストを元に、機関リポジトリへの掲載の許諾状況に関して、海外出版社は英国ノッティンガム大学の運営するSHERPA/RoMEO (Publisher copyright policies & self-archiving) というデータベースを、国内の学協会については本学が運営しているSCPJ (学協会著作権ポリシーデータベース: Society Copyright Policies in Japan) を用いて、調査を行なっています。調査した結果、登録可能なものについては本文データを入手し、学術雑誌掲載論文約400件のほか、紀要論文約500件、博士論文等約170件など、合わせて1,600件を超えるコンテンツの追加登録を行いました。

2. TSA (Tsukuba Science Activities : つくばサイエンスアクティビティ)

TSAは、2011年度に、筑波研究学園都市の知の集積を活かしつつ、イノベーション推進を支援することを目的に開発されました。2008年度の国立情報学研究所CSI委託事業「つくばサイエンスリポジトリPilot Project」で得られた知見をもとに、筑波研究学園都市の研究活動をより動的に把握することができるよう、論文情報に加えて研究に関係した情報を取り込んで、最近のアクティビティも見えるように構築したものです。

TSA初期の論文情報検索対象機関は、産業技術総合研究所、物質材料研究機構、筑波大学です。

TSAとはWeb上で公開している筑波研究学園都市内の複数機関に関係したデータ (イベント情報、Twitter、研究者情報、論文情報、知的資源情報、Web検索、研究機関情報) をワンストップ・サービスで提供するシステムです。

論文情報は本文に辿り着けることを重視し、機関リポジトリを対象としました。対象機関リポジトリは産業技術総合研究所<http://www.ibase.aist.go.jp/infolib/meta_pub/G0000002repository>、物質材料研究機構<<http://pubman.mpdl.mpg.de/pubman/faces/HomePage.jsp>>、筑波大学<<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/>>です。

イベント情報は筑波研究学園都市交流協議会 (筑協) の「つくばのイベントカレンダー」<<http://www.tsukuba-network.jp/>>

event_calendar/event.htm>やATND (アテンド) <<http://atnd.org/>>のつくば近辺のイベント情報をAPIで取得して表示しています。

研究者情報はJ-GLOBAL<<http://jglobal.jst.go.jp/>>のデータをAPI経由で検索、表示しています。

研究機関情報は筑協の「科学の街 TSUKUBA」<<http://www.tsukuba-network.jp/pamphlet/index.php>>の情報を元にしています。

検索結果はそれぞれのオリジナルのデータベースへのリンクを持っており、検索結果概要から元のデータベースの詳細情報に簡単にアクセスできるようになっています。

2012年度11月に実証実験のための試験公開を開始しました。

今回の公開にあたっては、つくばグローバル・イノベーション推進機構との連携によって同機構のWebページからもリンクが張られており、実際の使用感等の実証実験を行いました。TSAの検索対象データベースのひとつである「つくば知的資源サイバーモール (TKR)」<<http://tkr.tsukuba-wan.ne.jp/>>を作成した、つくばWAN情報資源共有研究会からもシステムの改良項目やユーザーインターフェースの使い勝手の意見をいただきました。

2013年度は指摘のあった改良項目を中心にシステムの改修を行います。今回対象とすることのできなかった筑波研究学園都市内のいくつかの機関リポジトリも追加する予定です。



(リポジトリ担当専門職員 真中 孝行)

5. 特別展

平成24年度の特別展は、附属図書館と図書館情報メディア系との共催により、「明治時代に礼法はいかにして伝えられたかー出版メディアを中心にー」と題して10月1日（月）から10月31日（水）まで中央図書館貴重書展示室で開催しました。

筑波大学は平成25年に開学40周年を迎えます。平成24年度から26年度にかけて「筑波大学開学40+101周年記念事業」が行われていますが、本特別展はそのプレ企画として認定されました。また、図書館情報大学と筑波大学との統合10周年にあたるため、「図書館情報大学・筑波大学統合10周年記念」としても位置付け実施されました。

本特別展は、図書館情報メディア系の綿拔豊昭先生を中心に、呑海沙織先生、情報管理課篠塚副課長による企画立案のもと、附属図書館研究開発室のプロジェクトの一つとして位置づけられ、職員8名によるワーキンググループが実施にあたる体制で行いました。

特別展の会期は学園祭が開催される10月に設定されています。10月6日から8日に開催された学園祭期間中の10月8日には綿拔先生による特別講演会とギャラリートークを開催しました。

本展示は「第1部 礼法の歴史」「第2部 教育」「第3部 遊び」「第4部 近代礼法書と図書館のマナー」の4部で構成されています。

第1部では江戸時代の礼法教授・指南をとりあげ書物の役割について示しています。第2部では明治になり学校教育で行われた礼法教育に教科書が果たした役割について、第3部では家庭教育の中で礼儀作法を遊び感覚で教える錦絵や双六などが普及に大きくかかわっていたことをとりあげました。第1部から第3部では礼法がどのような情報メディアを媒体として伝えられてきたかを視覚的に理解できるような構成になっています。また、第4部では近代礼法書に取り上げられた図書館のマナーについて扱っています。

特別展の来場者は1,397名を数えました。これまで展示でとりあげられることの少ない礼法をテーマとしたことに加え、美しく華やかな明治の錦絵を中心とした展示であることも幅広い皆様からご好評をいただいたこととなったと思われます。第3部の展示品の多くは平成21年度人文社会系コレクションとして購入した「女礼式関連浮世絵」の中から選んだものですが、今回の特別展で初めて公開されたものです。

特別展では附属図書館ボランティアの皆様にも例年ご協力いた

いています。今年も折紙制作などでご協力いただきました。

図書館のWGは例年通り様々な作業を行うとともに、展示会ブログやTwitterの実施のほか、綿拔先生による講演会とギャラリートークをYouTubeで公開しました。ビデオによる展示品解説は一昨年から始まり今年で3回目となります。今回はギャラリートーク会場の雰囲気をもままお伝えして参加者と一緒に楽しんでいただける構成となるよう試みました。展示品のうち掛け軸『女礼式教育寿語録』『女子教育出世双六』の2点については絵や文字が小さくて読みにくいため、画像と読みを付けたパネルを展示し、同じ内容の配布資料を作成して観覧者からご好評いただきました。アンケートでは学校での礼法教育についての思い出や現職の方からのご意見など多数寄せられたことも今回のテーマならではのことと思います。今後もアンケート、Twitterやブログ等様々なものを利用して観覧者とのコミュニケーションに役立てていきたいと思っています。

（特別展WG主査 山中 真代）



綿拔先生による特別講演会



講演会後のギャラリートーク

10月9日のギャラリートークはビデオで公開中

特別展ページURL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/reihou/index.html>

資料紹介

敦煌吐魯番文献集成 (請求記号: 222.17-Sh12)

1900年——敦煌の莫高窟から大量の文献が発見されました。王円録という道士が壁のなかに小さな空間をみつけたことがきっかけでした。のちに藏経洞と呼ばれることになるその空間には、数万点にもおよぶ古い文献がうすたかく積まれていたのです。これが敦煌文献です。

このように大量の文献が壁のなかに封じこめられていた理由については、西夏の侵略からまもろうとしたという説を筆頭に、何らかの難を避けてのことという考え方があります。特に、西夏軍からまもろうとしたという説は、井上靖の小説『敦煌』でも描かれて有名です。一方で、みつかった文献のなかには手習いや書き損じのようなものも多く含まれていることから、不要なものの置き場所であったという説も有力になりつつあります。

これらの文献が発見された当初、現地ではこれを重大視しませんでした。そこへ次々と海外からの探検家が出てきて、本国に文献をもちかえりました。その結果、敦煌文献は、世界各地に分蔵されることになります。

まず、イギリスからはオーレル・スタインが出てきて、王円録から数千点の文献を購入しました。これらはロンドンの大英図書館にスタインコレクションとして所蔵されています。ついで、フランスからはポール・ペリオが出てきますが、東洋学を専門とし、中国語に堪能だったペリオは、自ら藏経洞に入り、文献を吟味して、価値の高いものを選びすぐて入手しました。ペリオのコレクションはパリのフランス国立図書館に収められています。



藏経洞のペリオ
(国際敦煌プロジェクト: シルクロード
オンライン
[http://idp.afc.ryukoku.ac.jp/pages/
collections_fr.a4dより](http://idp.afc.ryukoku.ac.jp/pages/collections_fr.a4dより))

大谷探検隊が集めたものは、各地に分かれて所蔵されていますが、オルデンブルグのものはサンクトペテルブルグのロシア科学アカデミー東洋学研究所に所蔵されています。

このように、世界各地に分蔵される敦煌文献ですが、その結果、

さまざまな地域において、さまざまな分野の研究者によって、国際的な研究が展開することになりました。そしてそれは「敦煌学」と呼ばれるひとつの学問を形成しています。この敦煌学の創成には、日本の学者たちも大きな役割を果たしています。

敦煌文献の大部分は、漢文で書かれた仏教関係の文献です。そのため、仏教学、仏教史学の分野での研究に寄与するところが大きかったのはいうまでもありません。しかし、それ以外にも、文学、言語、経済、歴史、芸術など、さまざまな資料が含まれており、各方面から注目されてきました。

そもそも中国では、写本よりも印刷された刊本の方が重視されたことなどもあって、古い時代の写本はほとんど残っていませんでした。藏経洞からみつかった文献は、5世紀から11世紀に書かれたものとみられていますから、中国の写本の空白期を埋めるきわめて重要な資料なわけです。これまでまったく知られていなかった文献が発見されたり、目録などにより書名だけは知られていながらも現物が残っていなかった文献が確認されたりした例は枚挙に暇がありません。現在でも陸続と研究成果が発表されています。

このたび、平成24年度人文社会系コレクションとして、敦煌吐魯番文献集成(上海古籍出版)というシリーズの一部があらたに本学中央図書館の所蔵となりました。このシリーズは、各地に分蔵される敦煌文献の影印を、所蔵機関ごとに収録したものです。今回購入したのは、敦煌文献のなかでも質の高さで知られるペリオコレクション(法蔵敦煌西域文献)と、断簡が多いために未整理の部分も多く、今後の研究の進展が望まれるロシアのコレクション(俄蔵敦煌文献)が中心です。大英図書館や中国国家図書館所蔵のものにかんしては、敦煌宝蔵(新文豊出版)というシリーズの影印がすでに所蔵されています。こちらのシリーズは画像があまり鮮明でないうえに、体育・芸術図書館や図書館情報学図書館の所蔵なので、同時に参照しにくいといううらみはありますが、ともあれ、これで敦煌文献の主要なコレクションはほぼ参照できることとなりました。その先には「敦煌学」の世界がひろがっていますが、まずは手にとって、シルクロードの要衝、敦煌の石窟に何百年も人知れず眠っていた文献たちの息づかいを感じてみてください。



※「敦煌吐魯番文献集成」は、中央図書館新館3階大型本コーナー(禁帯出)に配架されています。

(人文社会系助教 本井 牧子)

5 職員の活動

茨城県図書館協会大学図書館部会研修

1.SCPJワークショップ

本学附属図書館は千葉大学、東京工業大学、神戸大学の各附属図書館とともに、国立情報学研究所の機関リポジトリ構築連携支援事業（CSI委託事業）の支援を受け、「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト」を行ってきました。このプロジェクトで構築してきた「学協会著作権ポリシーデータベース」の英語名称“Society Copyright Policies in Japan”から、このプロジェクトはSCPJプロジェクト、データベースはSCPJデータベースと呼ばれています。

このSCPJプロジェクトの一環として、平成24年12月13日（木）、「機関リポジトリ担当者のための著作権ワークショップ」（SCPJワークショップ）を大阪大学総合図書館内の図書館ホールにおいて開催しました。（共催：大阪大学附属図書館／後援：デジタルリポジトリ連合）

本学の「つくばリポジトリ」のような、大学等の研究機関で生み出された論文等の研究成果を蓄積、公開するシステムとして「機関リポジトリ」（Institutional Repository）があります。国内では大学図書館を中心に、平成24年12月現在、200以上の機関リポジトリが設置、運営され、学術雑誌に掲載された論文本文などを公開しています。国内初の機関リポジトリが誕生してからわずかな期間で、これほど多くの機関リポジトリが設置されたのは、学術研究の成果である査読済論文（ポストプリント）やプレプリント等をインターネット上で共有しようとするオープンアクセス運動が世界中で興隆していることと無関係ではありません。機関リポジトリは、オープンアクセスジャーナルと並んでオープンアクセスを実現する手段と位置づけられているのです。

学術雑誌論文では、投稿から掲載までの過程で、著作権が論文著者から雑誌を出版する学協会や出版社に譲渡されることが多く、そのような論文を機関リポジトリで公開する際には、学協会や出版社の許諾が必要となります。SCPJプロジェクトではオープンアクセスを実現するため、学術雑誌を刊行している日本国内の学協会の、機関リポジトリによる公開条件（著作権ポリシー）を調査し、結果をSCPJデータベースに蓄積しています。

SCPJプロジェクトが各学協会に対して著作権ポリシーの調査を行って充実させたデータベースを参照し、実際に機関リポジトリへの学術雑誌投稿論文の登録を行う中心となるのは、各機関の図書館職員です。今回のワークショップはSCPJデータベースの活用を推進、拡大するために、機関リポジトリの実務担当者である図書館職員を対象に開催しました。

ワークショップには、講師5名を含め、近畿・中部地方を中心とした大学附属図書館のリポジトリ関係者37名の参加があり、機関リポジ

トリ担当者の著作権処理実務に対する関心の高さが感じられました。

ワークショップでは、まず、日本大学の小山准教授により、SCPJデータベースのデータを利用したオープンアクセス実現のための取り組みの在り方についての講演がありました。機関リポジトリに登録されている論文のダウンロード実績や、それまで冊子体で行われていた大学図書館間の文献複写の依頼量が、機関リポジトリの登場でどう変化したかの解析をエビデンスとして、日本語の学術論文に対するオープンアクセス化の必要性（利用者ニーズ）が指摘されました。

続いて、一橋大学附属図書館および神戸大学附属図書館の機関リポジトリ担当者から、機関リポジトリ業務を行う上で注意すべき点などをまとめた著作権概論と、SCPJデータベースの有効活用について詳細な報告が行われました。



講演の様子

フロアも交えた後半のパネルディスカッションでは、今後のSCPJデータベース活用戦略とオープンアクセスの推進について実りの多い議論が行われ、日本のオープンアクセスの進捗のためには、SCPJプロジェクトの継続と、SCPJデータベースを活用した大学間連携による学術論文収集活動の強化の必要性が確認されました。

講演者の皆様、ご参加いただいた皆様、後援いただいたデジタルリポジトリ連合をはじめ、多くの方にご協力いただき、ありがとうございました。会場を快く提供していただいた共催機関の大阪大学附属図書館の皆様には特に感謝申し上げます。



パネルディスカッションの様子

（参考）

- 当日資料：http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/SCPJ_WS/
- SCPJデータベース：<http://scpj.tulips.tsukuba.ac.jp/>

（リポジトリ担当専門職員 真中 孝行）

2.論文発表・研修における講師等

当館職員の論文執筆や、学外の研修・シンポジウム等における講師・事例発表等の活動記録です。

1.執筆活動

内島秀樹, 真中孝行. 特集, 学協会の学術情報発信・流通のこれから: SCPJプロジェクトの現在と展望: セルフアーカイブにおけるオープンアクセス推進のために. 専門図書館. 2012, No.256, p.14-18.

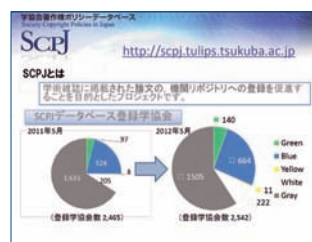
真中孝行. 機関リポジトリにおける著作権許諾処理とコンテンツ登載. 医学図書館. 2013, Vol.60, No.1, p.46-50.

2.ポスター発表

「オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメントプロジェクト(SCPJプロジェクト3)」平成23年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系), 2012.6.12, 国立情報学研究所.

→Web でフルテキストを入手できます。

<http://hdl.handle.net/2241/117332>



SCPJ ポスター

3.講師・事例報告

開催日	氏 名	催し名 【テーマ・レジュメ・参考URL】
2012.6.13	真中 孝行	平成23年度CSI委託事業報告交流会(コンテンツ系) 【テーマ】オープンアクセスとセルフ・アーカイビングに関する著作権マネジメント・プロジェクト(SCPJプロジェクト3)
2012.8.23	真中 孝行	平成24年度機関リポジトリ新任担当者研修(筑波会場) 【テーマ】事例紹介・模擬プレゼン
2012.8.23	中山 知士	平成24年度機関リポジトリ新任担当者研修(筑波会場) 【テーマ】著作権概論・実習
2012.9.27	内島 秀樹	平成24年度機関リポジトリ中堅担当者研修 【テーマ】海外から見た日本の機関リポジトリと図書館専門職
2012.10.4	関川 雅彦	平成24年度図書館職員短期研修 【テーマ】電子コンテンツ導入・利用の現状と課題 【レジュメ】 http://www.nii.ac.jp/hrd/ja/librarian/h24/lib-07.pdf
2012.10.18	中山 知士	平成24年度機関リポジトリ新任担当者研修(NII会場) 【テーマ】著作権概論・実習
2012.10.25-26	真中 孝行	国際オープンアクセスウィーク2012企画 大学共同利用機関におけるリポジトリに関する情報交換会 【テーマ】今後のSCPJとオープンアクセスについて
2012.11.8	関川 雅彦	平成24年度図書館職員短期研修 【テーマ】電子コンテンツ導入・利用の現状と課題
2012.11.22	福井 啓介	第14回図書館総合展 丸善主催フォーラム「大学経営を変える新たな図書館」 【テーマ】図書館らしさが見える企画とは
2013.1.25	福井 啓介	筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター 第98回研究談話会 【テーマ】筑波大学中央図書館における学習支援への取り組みについて～ラーニング・スクエアでの活動報告～

3.職員研修会

2012年度は、職員の資質向上と経験の共有を図るため計7回行いました。

日 時 ・ 場 所	講 師	参加人数
テーマ		
第1回 2012. 6.19 15:00 - 16:00 集会室		
大学図書館における貸出履歴の分析	逸村 裕(図書館情報メディア系 教授)	21人
第2回 2012.10.23 13:15 - 15:10 集会室		
機関リポジトリが学術文献流通の中で果たしている役割／ある博士後期課程院生の日常と図書館	佐藤 翔(図書館情報メディア研究科 博士後期課程)	26人
第3回 2012.10.31 - 11.9 会議室		
新人職員研修		対象4人
第4回 2012.12.20 10:00 - 11:00 集会室		
明治大学和泉図書館見学報告	嶋田 晋(企画渉外担当 主任) 中山 知士(電子図書館担当 主任) 大曾根美奈(レファレンス担当 主任) 大和田康代(図書サービス担当 主任)	23人
第5回 2013. 1.10 14:15 - 15:30 集会室		
千葉大学アカデミック・リンク・センター見学報告、シンポジウム報告	渡邊 雅子(レファレンス担当 係長) 渡邊 朋子(レファレンス担当 主任)	15人
第6回 2013. 2. 7 10:00 - 16:00 集会室		
図書の修理と製本	高尾 齊(キハラ株式会社)	35人
第7回 2013. 3.13 13:30 - 16:30 集会室		
平成24年度茨城県図書館協会 大学図書館部会研修会 「場／コミュニケーション／図書館」 ・サイエンスコミュニケーションについて ・異文化コミュニケーション活動について ・ビブリオバトルについて	渡辺 政隆(広報室 教授／サイエンスコミュニケーター) 角谷 雄哉、本多 健太郎、善甫 啓一(TGN(つくば院生ネットワーク)メンバー) 常川 真央(図書館情報メディア研究科 博士後期課程)	26人



見学報告会



6 トピックス

1. サービス・活動

日 付	内 容
2012.4.3	強風警報のため、全館 17 時で閉館
2012.4.16 - 2013.3.4	(中央図書館) エントランスホールでの学生交流企画 Monday Morning Institute (主催: つくば院生ネットワーク)
2012.5.21	(体芸図書館) 耐震改修工事終了、通常開館開始
2012.5.30	データベース "最新看護索引 Web" と "Library Literature & Information Science Index" を導入
2012.6.22 - 7.6	(中央図書館) 企画展 筑波大学・ダイバーシティ (男女共同参画) フェスタ「パネル展」 (主催: ダイバーシティ推進室)
2012.7.4	(中央図書館) 附属図書館ボランティアによるおりがみ講習会
2012.9.3 - 9.30	(中央図書館) 企画展「Learning Adviser×Booklog の本棚」
2012.9.10	図書館 OPAC の検索結果から、書誌情報を Mendeley に取り込む機能の施行サービス開始
2012.9.24 - 10.8	(中央図書館) 企画展「第 2 回リサーチフェスタ 2012 受賞者のポスター展示」
2012.10.1 - 10.31	平成 24 年度附属図書館特別展 (図書館情報大学・筑波大学統合 10 周年記念) 「明治時代に礼法はいかにして伝えられたかー出版メディアを中心にー」
2012.10.6 - 10.8	(中央図書館) 企画展「近未来書籍 Lab.」(図書館情報メディア研究科宇陀研究室と共催)
2012.10.9 - 11.11	(中央図書館) 企画展「プレゼンバトル 2012 ポスター発表作品展示」
2012.10.16	(中央図書館) 附属図書館講演会「小さな微生物の大きな力」
2012.10.18 - 12.11	(中央図書館) ライティング支援連続セミナー「知識と言葉をめぐる冒険」
2012.11.1 - 2013.3.8	(中央図書館) 開館時間延長試行 (月～金曜日は 8 時 30 分から開館。土日祝日は 20 時まで開館。)
2012.11.1	TSA (つくばサイエンスアクティビティ) 公開
2012.11.7	(中央図書館) 附属図書館ボランティアによるおりがみ講習会
2012.11.13 - 12.2	(中央図書館) 企画展「筑波大学大学院共通科目ポスター展」
2012.12.3 - 1.10	(中央図書館) 企画展 筑波大学ハラスメント防止「パネル展・図書展示・セミナー」 (主催: ダイバーシティ推進室)
2012.12.13	機関リポジトリ担当者のための著作権ワークショップ (千葉大、東京工業大、神戸大と共催)
2012.12.18	データベース "The Making of the Modern World, Part II" を導入
2012.12.28 - 2013.1.3	(図情図書館) 年末年始の時間外利用試行
2013.1.7 - 2013.3.8	(中央図書館) 開館時間延長試行 (月～金曜日は 24 時まで開館)
2013.1.7	電子ジャーナルバックファイル (Nature 姉妹誌 3 誌) を購入、創刊号から利用可能に
2013.1.22 - 2.11	(中央図書館) 企画展「平成 24 年度先導的研究者体験プログラムポスター展示」
2013.2.12 - 3.8	(中央図書館) 企画展「創造的復興: サイエンスビジュアルリゼーション演習 作品展」
2013.2.22	(中央図書館) 附属図書館ボランティアによるおりがみ講習会
2013.3.2 - 3.25	(図情図書館) メディアミュージアム ミニ企画展「東日本大震災の地域資料」
2013.3.11 - 4.26	(中央図書館) 企画展「震災から学ぶ本棚 2.0」
2013.3.11 - 3.22	(中央図書館) 企画展「スターバックス 5 周年記念のコラボ企画展示」
2013.3.12	Springer 社の電子ブックコレクションを拡充

2. 見学・来訪者

日 付	内 容
2012.7.9	Bureau of Academic Affairs and Educational Standards, the Office of the Basic Education Commission (Thailand) 14 名
2012.7.30 - 8.1	「平成 24 年度受験生のための筑波大学説明会」 2,991 名
2012.10.22	土木研究所在籍 JICA 研修生 14 名
2012.12.12	(米国) ハワイ大学インターンシップ 6 名
2013.2.4	(韓国) 釜山大学インターンシップ 6 名
2013.2.19	(タイ) コンケン大学学長一行 40 名
2013.2.25	経済・公共政策マネジメントプログラム外部評価 4 名

3.オリエンテーション・講習会

内 容	実施回数	参加者数
新入生オリエンテーション（学群生）	4回	2,345名
新入生オリエンテーション（院生）	8回	119名
留学生オリエンテーション	13回	247名
新任教員オリエンテーション	2回	34名
図書館の本や雑誌の探し方講習会	7回	30名
論文の探し方講習会	39回	291名
自由テーマオリエンテーション	9回	39名
フレッシュマンセミナー（各学類等）ほか	33回	1,498名
その他	33回	731名
授業「基礎化学実験」の2週分を担当（2012.5）	2回	114名
授業「知の探検法」の2学期・3学期の各5週分を担当（2012.9 - 2013.2）	10回	225名

4.研修・シンポジウム

日 付	内 容
2012.7.2 - 7.13	平成 24 年度大学図書館職員長期研修（受講生 36 名）
2012.7.23 - 8.3	インターンシップ（筑波大学情報学群 知識情報・図書館学類 2 名）
2012.12.12	国際インターンシップ（ハワイ大学 6 名）
2013.2.4	国際インターンシップ（釜山大学 6 名）

5.会 議

日 付	内 容
2012.5.16-2013.3.19	附属図書館研究開発室運営会議
2012.5.22・7.24・10.2・10.22・ 2013.2.26	附属図書館運営委員会
2012.6.14-9.19	附属図書館収書専門委員会
2012.6.19-12.18	附属図書館ボランティア専門委員会

6.その他

日 付	内 容
2012.6.25 - 7.16	体育・芸術図書館 空調工事（震災復旧工事の際に空調ダクト内に大量に堆積した粉塵が、冷房時に吹き出し口から大量に噴出したことの応急処置：空調吹き出し口に集塵フィルターを設置）
2012.6.12 - 6.25	体育・芸術図書館 雨漏り補修工事
2012.7.9 - 8.1	体育・芸術図書館 タイルカーペット貼付
2012.10.22 - 10.26	体育・芸術図書館 日射調整フィルム貼付
2012.11.12 - 12.14	体育・芸術図書館 網戸設置
2012.12.10 - 12.19	体育・芸術図書館 ブラインド交換
2013.2.18 - 3.5	体育・芸術図書館 防犯カメラ設置 稼働開始 2013.3.7
2013.3.16 - 3.25	体育・芸術図書館 空調ダクト清掃（臨時休館）（震災復旧工事の際に空調ダクト内に大量に堆積した粉塵の除去）

メディアにみる附属図書館

1.学内外のメディアに掲載された当館に関する記事

日付	掲載元	メディア	掲載内容
2012.5.21	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp	Web	筑波大学附属図書館の体育・芸術図書館が震災復旧工事を終了し再開 http://current.ndl.go.jp/node/20890
2012.6.11	筑波大学新聞301号 p.1	学内広報誌	体芸図書館が再開 震災から1年ぶり
2012.7.1	Tsukuba COMMUNICATIONS Vol.16,2012	学内広報誌	Tsukuba Supporters「図書館ボランティア」 p.31
2012.9.14	Campus Vol.193 2012 Sep.	学内広報誌	附属図書館の魅力を再発見-学生に開かれた、文化の集積地 - p.2-5
2012.9.25	iちゃっと 2012年10月号 p.3	茨城新聞折り込みフリーペーパー	図書館の魅力、再発見!(筑波大学附属図書館と「近未来書籍ラボ」の紹介)
2012.10.4	茨城新聞 朝刊 p.18	新聞	【催事情報】筑波大学附属図書館特別展「明治時代に礼法はいかにして伝わったか〜出版メディアを中心に」
2012.10.10 - 12	ACCSニュース	テレビ	筑波大学附属図書館特別展「明治時代に礼法はいかにして伝わったか〜出版メディアを中心に」綿抜先生インタビュー
2012.10.22	筑波大学新聞 303号 p.3	学内広報誌	ミニ特集 附属図書館特集 図書館を支えるひと
2012.10.22	筑波大学新聞 303号 p.10	学内広報誌	第38回学園祭 特別講演会「礼法はいかに伝えられたか」
2012.11.02	カレントアウェアネス-R http://current.ndl.go.jp	Web	筑波大附属図書館、筑波研究学園都市の研究情報発信ツール「つくばサイエンスアクセシビリティ」を公開 http://current.ndl.go.jp/node/22227
2012.12.5	NHK水戸「ニュースワイド茨城」	テレビ	「太子町の中学生が筑波大学を見学」(中央図書館見学の様子が含まれる)
2013.3	新しい図書館 Vol.23	機関誌	体育・芸術図書館(紹介記事)

2.図書館の刊行物

筑波大学附属図書館年報2011年度

平成24年度筑波大学附属図書館特別展

明治時代に礼法はいかにして伝えられたか ―出版メディアを中心に― (図録)

Prism (Practical Information for your Serendipity and Mind)

No.38 2012.4.18 筑波大図書館にない文献を入手する

No.39(J/E) 2012.5.14 中央図書館学生サポートデスク ラーニング・アドバイザー2012

No.40 2012.9.3 「学習支援の本棚」が、中央図書館でリアル3D化!?
Learning Advisor × Booklogの本棚

No.41 2012.10.1 筑波大学附属図書館 平成24年度ライティング支援連続セミナー
「知識と言葉をめぐる冒険」

No.42 2012.12.27 お薦め本レビューで新しい出会いを

No.43 2013.2.1 Reading/ボタン 教員から筑波大生へのmessage
第3走者 吉武博通 大学研究センター長

No.44 2013.2.12 お薦め本レビューありがとうございました!

No.45 2013.3.29 メディアの発展、古代から現代へ
(図書館情報学図書館メディアミュージアム常設展示)

No.46 2013.3.29 図情図書館ラーニングコモンズって…

筑波大学附属図書館概要 2013

筑波大学附属図書館利用案内2013



出版・放映・Web上に掲載された所蔵・公開資料

日付	内容	資料種別	資料名	請求記号	資料ID	掲載書名等
2012.4.16	展示パネル	和装古書	兵庫縣御免許開港神戸之圖	ネ040-115	10076904136	亀馬博物館
5.9	出版	貴重	鯨絵 [4]	726.1-N41	10084019124	農村計画学会誌 2012.6
5.11	放映	和装古書	文部省発行錦繪：衣喰住之内家職幼繪解之圖等]；[1]	ヘ950-宮196	10088015236	関西TV 「京都・美の創造者 #11 刃物編」 2012.5.23
5.22	Web上での電子的掲載	貴重	鯨絵 [10]	726.1-N41	10084019130	問題データベース中学校社会
5.29	出版	和装古書	房川船橋勤番繪圖 御成之節	ヨ150-161	10076879831	朝日ビジュアルシリーズ「日本の世界遺産 19 日光」
5.29	放映	和装古書	西洋料理通	セ700-10	1007639217 - 1007639219	放映テレビ朝日「雑学家族」2012.6.2
7.12	出版	和装古書	繪圖(ゑづ)の林(はやし)	カ210-209	10076897317	美術史学会「美術史」第173冊
7.20	出版	和装古書	信州飯山城	ヨ150-36	10076879698	「飯山城絵図集成」
7.31	出版	和装古書	文部省発行錦繪 他	ヘ950-宮196 他	10088015236 他	博士論文
8.8	出版	和装古書	江戸切絵図30点	ネ040-91 他	10076904437 他	「東京ざっくり探訪 - 江戸切絵図と今」
8.21	展示パネル	和装古書	渡島國箱館港之圖	ネ040-106	10076754363	「維新と海図展」
8.21	展示パネル	和装古書	蝦夷國全図 朝鮮琉球蝦夷并ニカラフト カムサスカラッ嶋等数国 接壤ノ形勢ヲ見ル為ノ小図 官版実測日本地図	ネ040-95 ネ040-174 ネ040-652	10076904473 10076754382 10076904365	「伊能忠敬大図フロア展」
9.12	Web上での電子的掲載	和装古書	中等教育唱歌集	ヘ870-14 ヘ870-32	10088025230, 10088025250	音楽資料情報担当者セミナー (国立国会図書館)
9.27	出版	貴重	住吉物語絵巻	ル120-364-上	10076132005	あかね書房「写真で読み解く語源大辞典」
10.3	出版	和装古書	文部省発行錦繪：衣喰住之内家職幼繪解之圖等]；[2]	ヘ950-宮197	10088015217	「浮世絵芸術」2013.1
10.5	出版	貴重	歴聖大儒像 [1-6]	721.4-Ka58	10077242284 - 10077242289	「林羅山」
10.5	出版	和装古書	文部省発行錦繪：衣喰住之内家職幼繪解之圖等]；[2]	ヘ950-宮197	10088015217	「ハンサム・ウーマン新島八重」2013.1
10.26	出版	貴重(図情)	A Dictionary of the English language ほか2点	833.1-J64-1ほか	40781018900ほか	「図書・図書館史」JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ11
10.29	出版	和装古書	十八檀林志	ハ360-64	10076865417	大正大学総合仏教研究所
11.9	出版	貴重	歴聖大儒像 [6]	721.4-Ka58	10077242289	週刊歴史のミステリー-31号
11.12	Web上での電子的掲載	和装古書	絵本拾遺信長記	ル152-6	10076721029	ビクトリー中学社会版
11.14	出版	貴重	解体新書	サ200-6	10076713857	「新選日本史B」2014.4 発行予定
11.22	出版	貴重	北野神社社域図	北野社	10003015568	鹿児島大学法文学部人文科学論集 77号
11.28	出版	貴重	下学集	チ320-7	10076700088	「図書・図書館史」JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ11
12.5	出版	和装古書	琵琶行	ル335-54	10076855993	勉誠社「白居易研究年報 13号」
12.28	出版	和装古書	釈迦八相物語	182.8-B83	10089008629	竹林舎「釈迦の本地」
2013.1.17	出版	雑誌	新聲 復刻版、太陽、文章世界マイクロ版	F-シ69200, A-タ22000, マイクロ		小川芋銭研究センター「小川芋銭全作品集」
1.30	出版	和装古書	信州松代城	ヨ150-37	10076879699	新潟大学災害・復興科学研究所「災害・復興と資料」2号
2.13	出版	貴重	架鷹図6曲1双	721.4-Ta82	10003015103 10003015104	大阪市立美術館紀要 13号
2.13	出版	和装古書	諸家例集 巻58	ヨ216-213	10076746157	ベースボール・マガジン社「ビジュアル侍図鑑 第4巻 武士道とは」
3.6	出版	和装古書	連玉古状揃宝蔵 乙竹文庫	ル185-501	10088015359	「史林」96巻2号
3.15	出版	教科書	中等教育唱歌集、中等教育唱歌集再版	ヘ870-14 ヘ870-32	10088025230 10088025250	「日本の音楽資料」のデータベース化のための調査研究報告書
3.19	出版	貴重	北野社家日記 延徳元年十一月・十二月	北野社	10003015162	「図説 丹波八木の歴史」
3.19	出版	貴重	解体新書	サ200-6	10076713857	高等学校地理歴史教科書 「日本史A」改訂版
3.29	出版	貴重	摘英集	イ440-148	10076700326	「日本の歴史 4 抄物、広大な沃野」

※全39件から抜粋したものです。

附属図書館ボランティアの活動

1. 平成 24 年度ボランティア構成

●男性：10 ●女性：39 計 49 名

〈年齢内訳〉

●30代：2 ●40代：3 ●50代：19

●60代：17 ●70代：7 ●80代：1

●新規活動者 2 名、●更新活動者 47 名

2. 活動統計

1 総合案内

●ボランティアカウンター利用者数 1,372 人

(学内者：1,087 人 学外者：285 人)

●図書館見学案内 107 件 1,560 人

●対面朗読 146 時間

2 利用環境整備

●シェルフリーディング数 5,359 連

●不明図書の発見 15 冊

●ラベル補修 303 冊

●図書修理冊数 1,540 冊

(中央図書館：1,053 冊 図情図書館：487 冊)

3 体芸図書館ポスター整理 433 枚

3. 年間行事

1 フォローアップ研修

●ミニレクチャー 11月

・「電子ジャーナルの使い方」

講師 電子リソース担当専門職員 斎藤 未夏

・「古典籍目録を読む」

講師 情報管理課副課長 篠塚 富士男

●学内見学 5月

「アイントープ総合センター」

放射線について、基本的な説明を受けたあと、施設見学を行い、放射線量測定の実験をしました。

●学外見学 11月

「東京工業大学附属図書館」



東京工業大学附属図書館見学

2 意見交換会

●利用環境整備 9月

●総合案内 9月

3 ボランティア懇談会 10月

4 ボランティア講演会 10月

4. 各種活動

1 新たな活動

図書館の要請で、図書の書き込みを消す作業を、カウンター担当が行うことになりました。

2 見学案内

新入生、高校生、一般学外者等、見学者それぞれに適した内容で案内をしています。留学生の案内では、臨機応変に、韓国語やインドネシア語を交えて案内することもありました。

7/3～8/1 に開催された大学説明会では、多くの高校生が図書館の見学に訪れ、14名のボランティアが144人の高校生を案内しました。また、12月には、太子町の中学生を案内し、その様子がNHK 関東で放映されました。

3 海外からの見学者案内

●Bureau of Academic Affairs and Educational Standards, the Office of the Basic Education Commission (Thailand) 7月

●ハワイ大学インターンシップ 12月

●釜山大学インターンシップ 2月

●タイ・コンケン大学学長一行 2月

●経済・公共政策マネジメントプログラム外部評価 2月

4 特別展への協力

10月に開催された附属図書館特別展「明治時代に礼法はいかにして伝えられたか」に於いて、礼法の1つである折形に関連して、日本文化紹介のメンバーが葉袋などを折って飾り、展示会風景に華を添えました。

5 茨城県立図書館ボランティアとの交流会

1月に、茨城県立図書館ボランティア25名が来館し、相互の活動紹介や意見交換を通じて、交流を深め、刺激を与え合いました。



茨城県立図書館ボランティアとの交流会

6 図書修理講習会



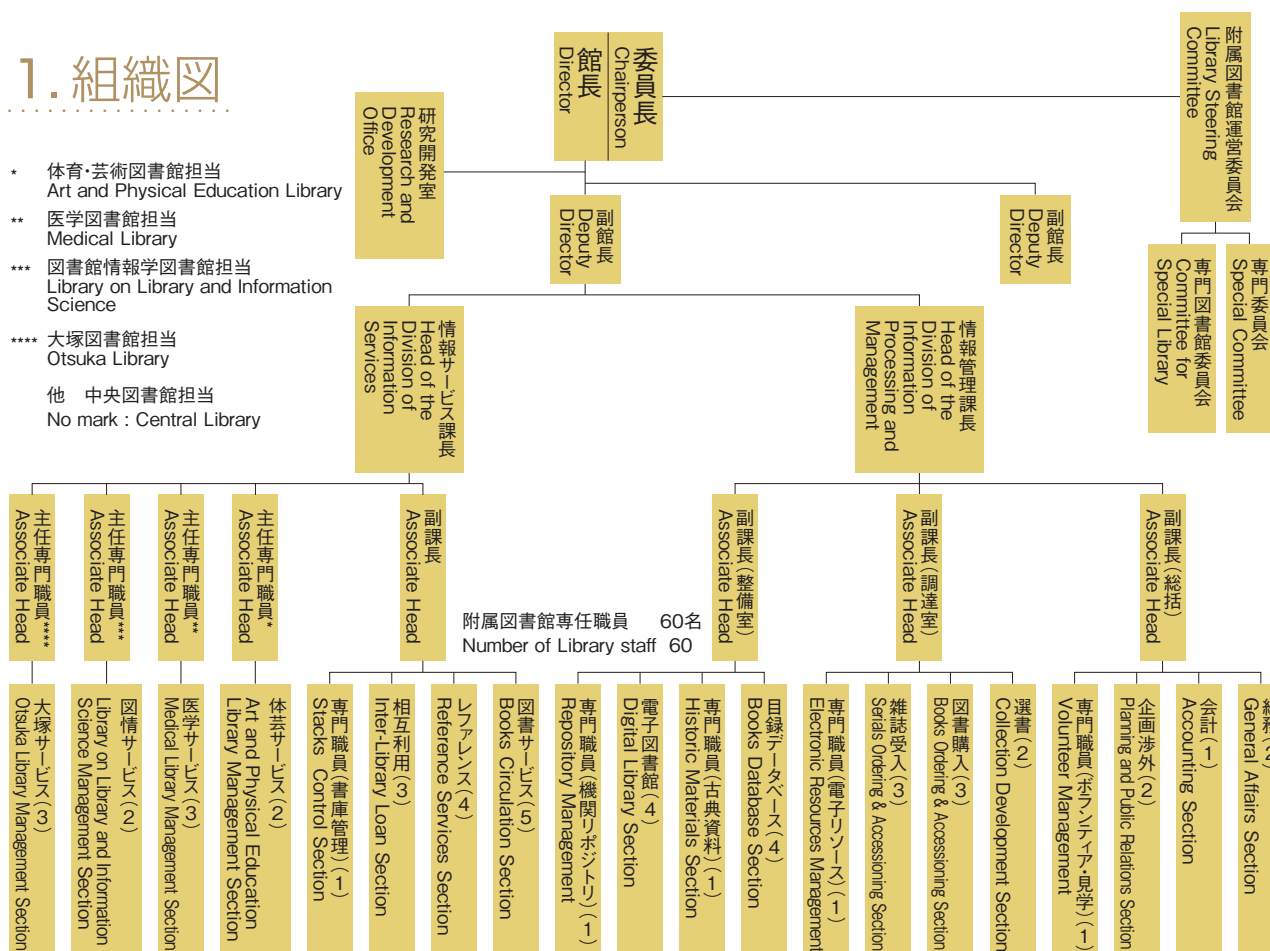
図書修理講習会

図書修理講習会に、20名のボランティアが参加し、修理技術の習得に励みました。

(見学・ボランティア担当専門職員 落合 厚子)

1. 組織図

- * 体育・芸術図書館担当
Art and Physical Education Library
- ** 医学図書館担当
Medical Library
- *** 図書館情報学図書館担当
Library on Library and Information
Science
- **** 大塚図書館担当
Otsuka Library
- 他 中央図書館担当
No mark : Central Library



(2012年4月1日現在)

2. 歴代図書館長

	名 前	期 間	備 考
高等師範学校	三宅 米吉	明治32年6月30日～ 明治36年9月6日	図書係事務監督
東京高等師範学校	三宅 米吉	明治32年9月7日 ～ 明治44年4月29日	主幹
	松井 簡治	明治44年4月30日～ 昭和4年3月31日	主幹
東京文理科大学	松井 簡治	昭和4年4月1日 ～ 昭和7年3月3日	
	諸橋 徹次	昭和7年3月4日 ～ 昭和20年10月3日	
	能勢 朝次	昭和20年10月4日 ～ 昭和24年5月31日	
東京教育大学	能勢 朝次	昭和24年6月1日 ～ 昭和24年8月30日	
	下村寅太郎	昭和24年8月31日～ 昭和29年7月15日	
	中西 清	昭和29年7月16日～ 昭和31年3月31日	
	熊沢 龍	昭和31年4月1日 ～ 昭和33年3月31日	
	熊沢 龍	昭和33年4月1日 ～ 昭和33年4月30日	事務取扱
	熊沢 龍	昭和33年5月1日 ～ 昭和35年4月30日	
	肥後 和男	昭和35年5月1日 ～ 昭和38年3月31日	
	山崎 宥	昭和38年4月1日 ～ 昭和40年3月31日	
	平塚 直秀	昭和40年4月1日 ～ 昭和42年3月31日	
	酒井 忠夫	昭和42年4月1日 ～ 昭和44年4月31日	
	宮嶋 龍興	昭和44年4月1日 ～ 昭和44年4月27日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和44年4月28日～ 昭和46年4月27日	
	橋本 重治	昭和46年4月28日～ 昭和47年3月31日	
	武藤 聡雄	昭和47年4月1日 ～ 昭和51年3月31日	
	西谷三郎部	昭和51年4月1日 ～ 昭和53年3月31日	

	名 前	期 間		備 考
筑波大学	三輪 知雄	昭和48年10月1日	昭和49年5月1日	事務取扱
	酒井 忠夫	昭和49年5月1日	～ 昭和50年4月1日	
	大甕 茂	昭和50年4月2日	～ 昭和52年4月1日	
	高橋 進	昭和52年4月2日	～ 昭和54年4月1日	
	宮嶋 龍興	昭和54年4月2日	～ 昭和54年6月9日	事務取扱
	岡本 敬二	昭和54年6月9日	～ 昭和56年4月1日	
	高橋 進	昭和56年4月2日	～ 昭和56年5月1日	事務取扱
	郡司 利男	昭和56年5月1日	～ 昭和60年3月31日	
	松浦 悦之	昭和60年4月1日	～ 昭和60年4月3日	事務取扱
	升田 公三	昭和60年4月3日	～ 昭和62年6月8日	
	柳 重剛	昭和62年6月9日	～ 平成元年6月8日	
	小川 圭治	平成元年6月9日	～ 平成3年3月31日	
	新井 敏弘	平成3年4月1日	～ 平成5年3月31日	
	北原 保雄	平成5年4月1日	～ 平成9年3月31日	2期
	斎藤 武生	平成9年4月1日	～ 平成11年3月31日	
	板橋 秀一	平成11年4月1日	～ 平成13年3月31日	
	山内 芳文	平成13年4月1日	～ 平成15年3月31日	
	林 史典	平成15年4月1日	～ 平成16年3月31日	
	植松 貞夫	平成16年4月1日	～ 平成22年3月31日	3期
	波多野澄雄	平成22年4月1日	～ 平成24年3月31日	
中山 伸一	平成24年4月1日	～		

統計

2012(平成24)年度

利用統計

		中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
年間開館日数 (日)	平日	239	202	239	239	245	
	土・日・祝日	84	68	112	125	113	
	合計	323	270	351	364	358	
入館者数(人)	平日	482,595	77,062	127,344	56,749	49,112	792,862
	(学外者 内数)	(24,778)	(1,894)	(7,123)	(5,503)	(19,956)	(59,254)
	土・日・祝日	61,207	7,827	31,569	7,904	34,710	143,217
	(学外者 内数)	(6,633)	(369)	(4,854)	(1,585)	(12,441)	(25,882)
	合計	543,802	84,889	158,913	64,653	83,822	936,079
	(学外者 内数)	(31,411)	(2,263)	(11,977)	(7,088)	(32,397)	(85,136)
平均入館者数(人)	平日	2,019	381	533	237	200	
	(学外者 内数)	(104)	(9)	(30)	(23)	(81)	
	土・日・祝日	729	115	282	63	307	
	(学外者 内数)	(79)	(5)	(43)	(13)	(110)	
	合計	1,684	314	453	178	234	
	(学外者 内数)	(97)	(8)	(34)	(19)	(90)	
貸出冊数(冊)	学群生	99,388	12,857	15,011	12,581	700	140,537
	院生	98,349	13,753	5,217	9,169	7,467	133,955
	教員	28,937	3,952	2,953	2,543	1,969	40,354
	学外者	5,214	548	676	1,137	1,294	8,869
	その他	1,062	0	2	0	1	1,065
	合計	232,950	31,110	23,859	25,430	11,431	324,780
貸出利用者数(人)	学群生	43,576	5,553	7,848	5,864	498	63,339
	院生	33,419	4,587	2,116	3,611	3,980	47,713
	教員	6,454	694	873	776	445	9,242
	学外者	2,428	253	315	581	689	4,266
	その他	79	0	2	0	1	82
	合計	85,956	11,087	11,154	10,832	5,613	124,642
文献複写(コピー) (件)	学外依頼	5,090	800	4,324	248	2,445	12,907
	学外提供	2,051	163	803	78	153	3,248
	合計	7,141	963	5,127	326	2,598	16,155
相互貸借(図書) (件)	学外借受	1,227	65	10	138	193	1,633
	学外貸出	2,336	136	59	117	38	2,686
	合計	3,563	201	69	255	231	4,319
レファレンス件数(件)	学生	15,829	1,734	1,428	1,275	4,598	24,864
	教職員	3,310	298	4,028	424	594	8,654
	その他	1,892	53	66	309	229	2,549
	合計	21,031	2,085	5,522	2,008	5,421	36,067
	資料に関するもの	10,276	1,099	5,162	572	4,635	21,744
	利用案内・指導	10,686	985	360	1,409	783	14,223
	事実に関するもの	69	1	0	27	3	100
	合計	21,031	2,085	5,522	2,008	5,421	36,067

電子図書館アクセス数

トップページアクセス件数	件
学内	1,015,809
学外	405,936
合計	1,421,745

つくばリポジリアクセス件数	件
セッション数	267,833
ページビュー数	721,228

主要な電子ジャーナルアクセス件数(フルテキスト)	件
Elsevier(ScienceDirect)	465,841
Wiley-Blackwell(InterScience)	142,587
Springer(LINK)	93,541
Oxford University Press	25,550
Cambridge University Press	6,339
Nature Publishing Group	113,154

主要な文献情報データベースアクセス件数(サーチ数)	件
Web of Science	140,216
SciFinder	25,757
Journal Citation Reports	8,584
Business Source Premier	8,353
CiNii	743,844
医学中央雑誌	77,266

基盤統計

施設環境

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
建物面積 (m ²)	19,330	3,518	2,793	2,798	1,552	29,991
座席数 (席)	1,022	395	349	261	131	2,158
利用者用PC台数 (台)	158	71	75	33	14	351

※平成25(2013)年3月31日現在

図 書

(冊)

	中央図書館	体育・芸術 図書館	医学図書館	図書館情報学 図書館	大塚図書館	合 計
図書の受入 (和洋区分)						
和書	12,516	2,416	1,961	1,847	1,315	20,055
洋書	7,033	379	232	399	985	9,028
合計	19,549	2,795	2,193	2,246	2,300	29,083
(受入区分)						
購入	9,119	1,704	1,233	1,345	820	14,221
寄贈	8,029	661	299	685	1,204	10,878
製本	2,383	427	660	215	273	3,958
その他	18	3	1	1	3	26
合計	19,549	2,795	2,193	2,246	2,300	29,083
蔵書数 (和洋区分)						
和書	1,068,451	186,583	90,962	173,478	43,097	1,562,571
洋書	785,318	66,249	80,503	73,420	16,572	1,022,062
合計	1,853,769	252,832	171,465	246,898	59,669	2,584,633

雑誌 (冊子) 受入タイトル数

内 訳	年度受入タイトル数		
	購入	寄贈	計
和雑誌	1,067	6,484	7,551
洋雑誌	1,139	1,033	2,172
合計	2,206	7,517	9,723

電子ジャーナル提供タイトル数 (*有料契約誌のみ)

内 訳	タイトル数
Elsevier (ScienceDirect)	2,190
Springer (LINK)	1,714
Wiley-Blackwell (Wiley Online Library)	1,377
Oxford University Press	172
Cambridge University Press	271
JSTOR	929
Nature Publishing Group	37
その他	16,210
合計	22,900

つくばリポジトリ 累積登録件数 (*平成24年度末現在)

内 訳	件 数
学術雑誌掲載論文	4,655
学位論文全文	1,885
学位論文内容・審査の要旨	6,864
紀要論文	12,991
研究成果報告書	1,794
会議発表資料	129
講義資料	12
研究業績目録	23
つくば3Eフォーラム	77
A-LIEP	63
その他 (図書)	123
合計	28,616

提供データベース・検索ツール

● 契約データベース

データベース名
Web of Science
Journal Citation Reports
SciFinder
Business Source Complete
LexisNexis
Westlaw Japan
D1-Law.com
CINAHL
医学中央雑誌WEB
PsycINFO
ProQuest Central
ProQuest Dissertations & Thesis
CiNii
Conference Proceedings Citation Index

● 学外への公開・発信

公開・提供内容
PPRBASE 捕食・寄生性昆虫データベース
沖縄歴史文庫データベース
応用動物昆虫文献データベース
日本美術シソーラスデータベース (試験運用版)
展覧会ポスターデータベース
SCPJ (学協会著作権ポリシーDB)
つくばリポジトリ
つくばWANサイエンスリポジトリ
茨城県遺跡資料リポジトリ

電子ブック契約タイトル 累積数 (*平成24年度末現在)

内 訳	タイトル数
Springer	16,343
NetLibrary	762
Wiley-Blackwell	584
Cambridge University Press	1,658
その他	151
合計	19,498

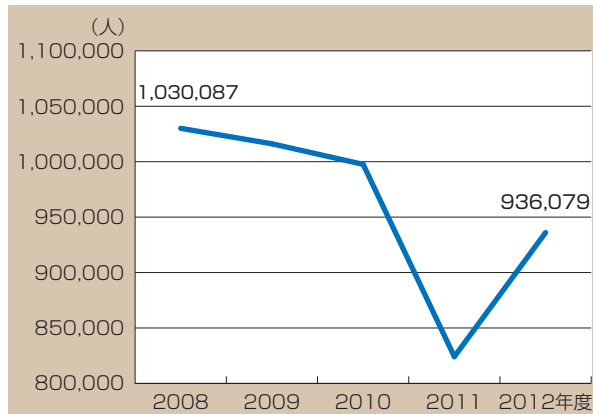
統計

2012(平成24)年度

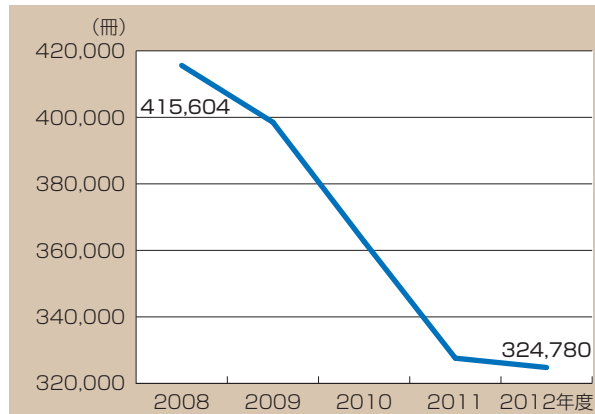
推移と分析

利用サービスの推移

●入館者数



●貸出冊数

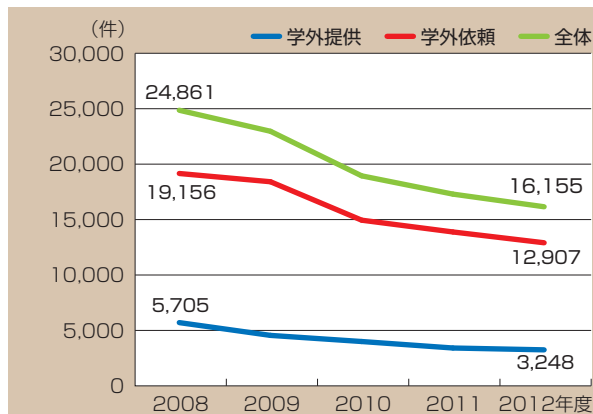


2011年度に震災による被害のため減少した入館者数は、2012年度には平年並みに回復しつつあります。これは、図書館の学習支援に向けた新しい試みや、開館時間延長の試行などが要因と考えられます。

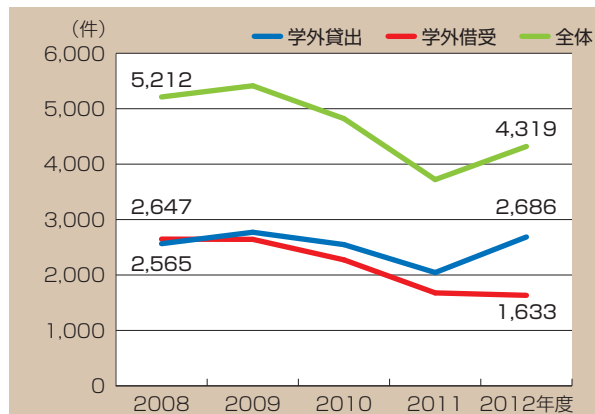
館別入館者数では、中央図書館、図書館情報学図書館が数%増加し、2012年5月下旬から通常開館した体育・芸術図書館が震災前の50%程度まで回復しました。大塚図書館は2011年9月のリニューアルから大きく入館者数が伸びていますが、2012年度も56%増加しました。

一方、貸出冊数は減少し続けており、4年前と比較すると約80%の数字となっています。

●文献複写(コピー)件数



●相互貸借(図書)件数

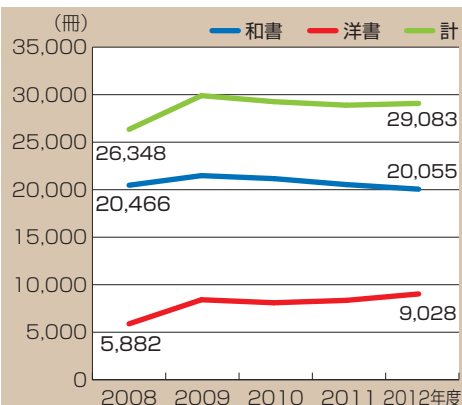


文献複写(コピー)件数は、2010年度以降、電子ジャーナルの購読タイトル数の大幅な増加があり、学外への複写依頼数は減少し続けています。

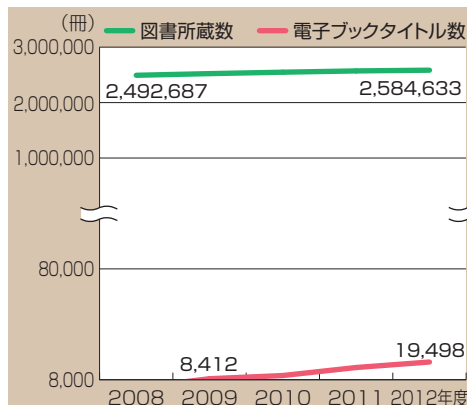
相互貸借(図書)も同じように学外への依頼件数が減少していますが、学外への貸出件数は増えています。

図書資料受入の推移

● 図書受入冊数 一和洋区分

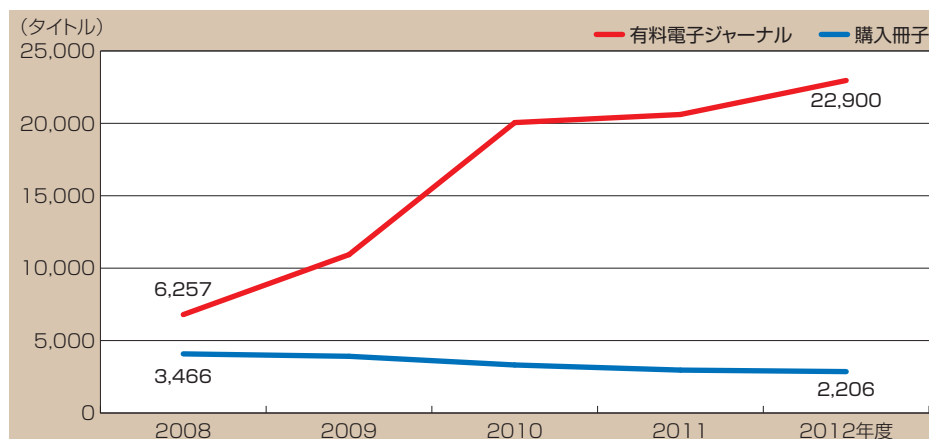


● 図書所蔵数・電子ブックタイトル数



図書受入冊数に大きな変化がないのに比較して、2008年に導入を開始した電子ブックのタイトル数の増加が目立ちます。

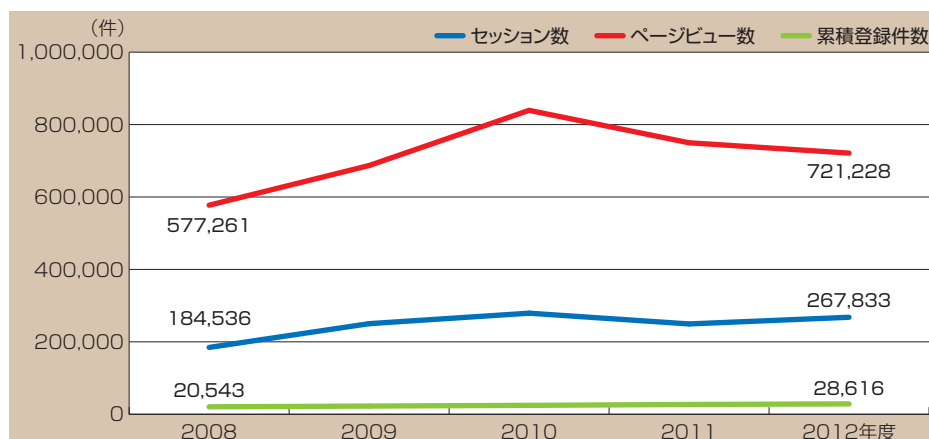
購入冊子と電子ジャーナルタイトル数の推移



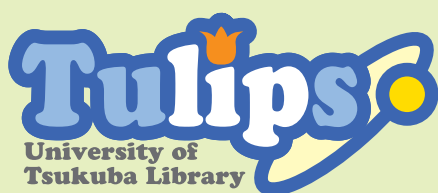
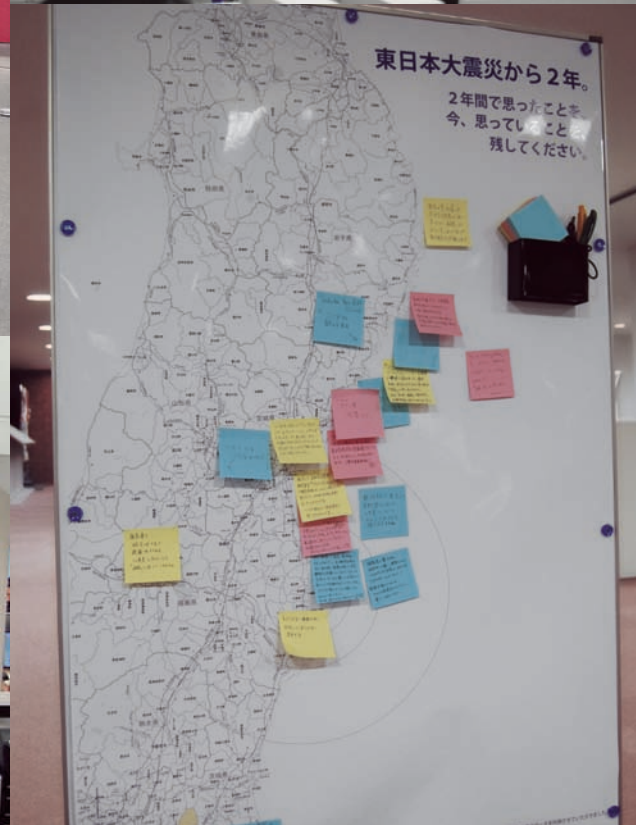
2009年度から2012年度まで、本学共通経費による安定的な電子ジャーナルの提供が実現し、電子ジャーナルのタイトル数も増加しています。

(※平成 21 (2009) 年度統計より統計数値を整理するに伴い、遡及的に過去の購入冊子数を修正しました)

つくばリポジトリ 登録件数と利用の推移



2011 年度は、前年度と比較してセッション数、ページビュー数ともに初めて減少しましたが、2012年度には、セッション数は上向きに転じました。



筑波大学附属図書館

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
TEL 029-853-2347 FAX 029-853-6052
E-mail voice@tulips.tsukuba.ac.jp
URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/>

UNIVERSITY OF TSUKUBA LIBRARY ANNUAL REPORT 2012

12